

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成31年4月18日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立長坂小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 49人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数，中学校は国語，数学及び英語。

イ 出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，知識・技能に関する内容と，それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については，国語及び算数・数学においては，選択式及び短答式に加え，記述式の問題とする。英語においては，選択式，短答式及び記述式の問題に加え，「話すこと」に関する問題の解答は，原則として口頭式によるものとする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に，学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より，文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は，整数となっております。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べると上位層が少なく、中下位層にやや多く分布している。

平均正答率（本校 46／泉佐野市 59／大阪府 60／全国 63.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○目的に応じて、質問を工夫することに課題がある。 3 二畳職人への【インタビューの様子】の [] の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する (44.9/67.4)</p> <p>○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることに課題がある。 3 三【インタビューの様子】の [イ] に、畳職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く (46.9/68.2)（無解答率 26.5/14.2）</p> <p>【書くこと】 ○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題がある。 1 二公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する (32.7/63.4)（無解答率 22.4/5.9）</p> <p>○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。 1 三公衆電話について調べたことを【報告する文章】の [] に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く (20.4/28.8)</p>	<p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題がある。 1 四(1) ア公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部アを、漢字を使って書き直す (調査のたいしょう) (20.4/41.9)</p> <p>1 四(1) ウ公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す (かんしんをもってもらいたい) (20.4/35.6)</p> <p>○文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。 1 四(2) 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の [] の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す (24.5/47.8)</p> <p>○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに課題がある。 3 四ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の [ウ] に入る適切なものを選択する (習うより慣れよ) (53.1/73.0)（無解答率 22.4/7.9）</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	34.7	64.2	○	29.5
国語の勉強は大切だと思いますか	77.6	93.0	○	15.4
国語の授業の内容はよく分かりますか	71.4	84.9	○	13.5
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	75.5	91.2	○	15.7
国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか	55.1	76.9	○	21.8
国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	55.1	78.1	○	23.0
国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	51.0	68.5	○	17.5
国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	63.2	71.4	◇	8.2
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか ※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」割合	69.4	80.4	○	11.0
解答時間は十分でしたか(国語)	69.4	74.2		4.8

* 上記の数字は4択「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」のうち、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合を合わせたもの

○「国語の勉強は大切だ」と回答している児童は77.6%であるが、「国語の授業の内容はよく分かる」と回答している児童は71.4%、「国語の勉強は好きだ」と回答している児童は34.7%と低い。更なる授業改善が求められる。

○選択式の問題でも無回答率が高い。長文を読むことに課題がある。

○漢字の書き取り問題に課題がある。

○語彙量が少ない。特にことわざに課題がある。

○文章量が多い問題や資料（理解しないといけない資料）の多い問題を解くことに課題がある。

○問題文や児童質問紙から、「どのように発表するか」また「工夫して発表すること」などを難しいと感じている児童が多い。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層及び中上位層が少なく、中下位層が多く分布している。

平均正答率（本校 52／泉佐野市 65／大阪府 66／全国 66.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】 ○示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がある。 3（2）減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く (8.2/31.1)</p> <p>【量と測定】 ○示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。 1（3）減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く (20.4/43.9)</p> <p>○場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断することに課題がある。 4（3）残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する (32.7/62.6)</p>	<p>【図形】 ○台形について理解することは概ねできている。 1（1）長方形を直線で切った図形の中から、台形を選ぶ (87.8/93.1)</p> <p>【数量関係】 ○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることは概ねできている。 2（1）1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ (91.8/95.2)</p> <p>○目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことは概ねできている。 4（1）だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ (79.6/82.7)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	53.0	68.6	○	15.6
算数の勉強は大切だと思いますか	87.7	93.7	◇	6.0
算数の授業の内容はよく分かりますか	63.2	83.5	○	20.3
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	85.7	92.5	◇	6.8
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	63.2	76.5	○	13.3
算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	55.1	79.1	○	24.0
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	65.3	82.0	○	16.7
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	61.2	82.1	○	20.9
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	69.4	84.0	○	14.6
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	55.1	87.0	○	31.9
今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか ※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」割合	63.3	80.7	○	17.4
解答時間は十分でしたか(算数)	77.6	84.0	◇	6.4

* 上記の数字は4択「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかというにあてはまらない」「あてはまらない」のうち、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合を合わせたもの

○「算数の勉強は大切だ」と「将来社会に出た時に役立つ」の項目については、85%以上の児童が肯定的に考えている。しかし、「算数の勉強は好き」という項目では、肯定的回答は53%に留まっており、学習への意欲面で課題がみられる。

○図形など、読む量が少なく一見して問題の意図が分かるものは解くことができている。

○読む力が弱く、文章が長くなると比例して解答率が下がる。

○解き方や考え方を求められたり、言葉を使って説明や証明をしたりする問題を解くことに課題がある。

○問題文の量が多く、要点をつかむことに課題がある。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択（31問）で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問（5問）は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては20%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【自分自身について】	<p>○自分には、よいところがあると思う割合は、全国を下回っている。</p> <p>○自己肯定感の低さが顕著である。</p>	<p>○自分には、よいところがあると思いますか 〈63.3/81.2〉</p> <p>○将来の夢や目標を持っていますか 〈65.3/83.8〉</p> <p>○学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか 〈61.2/84.1〉</p> <p>○人が困っているときは、進んで助けていますか 〈63.3/87.9〉</p>
【家庭生活の様子】	<p>○基本的な生活習慣に課題がある。 （就寝時間・起床時間に課題）</p> <p>○家族と学校での出来事を話す割合は、全国を下回っている。</p> <p>○地域や社会に対する関心の割合は、全国を下回っている。</p>	<p>○朝食を毎日食べていますか 〈87.8/95.3〉</p> <p>○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか 〈65.3/81.4〉</p> <p>○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか 〈87.8/91.6〉</p> <p>○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか 〈57.1/77.4〉</p> <p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか 〈46.9/68.0〉</p> <p>○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか 〈20.4/54.5〉</p> <p>○日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか 〈51.0/76.1〉</p>

<p>【家庭学習の様子】</p>	<p>○家庭学習をする習慣や計画を立てる習慣に課題がある。</p> <p>○読書を習慣づけることに課題がある。</p>	<p>○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか 〈59.1/71.5〉</p> <p>○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） 〈0～30分未満 22.4/9.9〉</p> <p>○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） 〈全くしない 30.6/18.7〉</p>
<p>【学校での生活の様子】</p>	<p>○学校のきまりについては児童の自己評価と教師の見立てに開きがある。</p>	<p>○学校のきまりを守っていますか 〈87.8/92.3〉</p>
<p>【学校での学習の様子】</p>	<p>○ICTを授業で活用している割合は、全国を上回っている。</p> <p>○自分の考えを深めたり広げたりすることは改善傾向にある。</p> <p>○自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表することに課題がある。</p>	<p>○5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか 〈59.2/30.6〉</p> <p>○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか 〈87.7/91.7〉</p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか 〈87.7/91.7〉</p> <p>○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか 〈34.7/65.7〉</p>

本校のとりくみ

◎これまでのとりくみ

1. 基礎基本の学力の定着

◇長坂タイム（始業前15分）のとりくみ

国語（漢字+ α ）・算数（計算+ α ）・外国語（DREAM）

◇学習規律の確立

「長坂小！みんなの学習ルール」「聞きとり名人あいうえお」「話し方名人かきくけこ」

「聴く、話す」「立腰・グーペタピン」（姿勢の保持）など適切な学習態度・行動を促す。

◇復習テストの実施（4月，11月，2月）

前学年までの既習事項を確認することで児童の実態把握をし，つまずきやすい単元を発見して，授業改善を行う。

◇ノート指導

見やすいノートの規準を示し，ていねいにノートを書く習慣をつける。

◇わくわく学習会

週1回放課後学習会（希望参加）を設定。集中して学習する姿勢を身につけ，算数の基礎基本問題を解き，自分の課題を克服していく。また，応用問題に触れる機会をつくる。

2. IT（チームティーチング），少人数指導・少人数習熟度別指導

◇学習内容によって，学びの形態を変え，よりわかりやすい授業，個別課題に対応する授業を行う。

3. 宿題・家庭学習の徹底

◇家庭学習の習慣化を促す「家庭学習のてびき」

家庭での基本的な学習態度や生活習慣を示し，毎学期「ばっちりウイーク」を設定し，家庭でも評価してもらう。

4. 指導力の向上

◇「聴く、話す」の力を高めるために（授業研究を通して）

基礎基本の学力をもとに，実際に課題を解決していくてだて（活用力）を高めていくため，「人の話を主体的に聴く」「自分の意見を人にわかるように話す」といった力をつける言語活動を研究・実践する。さらに，思考力を高める手立てとしてホワイトボードを活用した授業の工夫改善にとりくむ。

◇ユニバーサルデザインを意識した授業づくりのスキルを高める

上記の研究と並行して教室環境の整備，授業のめあての明示とふりかえりの徹底，実物投影機等のICTの活用，板書の工夫，聞きやすい説明の方法，意欲を高める評価方法など，実践交流を行い，研究通信により情宣する。

◇学力向上アドバイザーの配置

子どもの学習相談や課題のフォロー，職員の授業力アップに資する人材の活用により，学力課題に対する組織的とりくみ支援と個別支援をすすめる。

◇算数サポーターの配置

授業中の個々のつまずきに適宜対応できる個別支援をすすめる人材の活用。

5. 学級集団づくりと生徒指導

◇子どもたちの人間関係を把握し，安心して自分が出せ，ともに学習していく学級経営の研究と実践を行うとともに，一つひとつの生徒指導上の事案についてケース会議を実施する等，学校総力をあげて心の安定を図る。

◎これからのとりくみ

本校では「あなたも わたしも 大切な ながさかっこ 聴き合って 話し合って とともに学ぼう！」を教育目標とし、人権教育を柱とした学力保障や仲間づくりにとりくんでいます。児童質問紙において「はじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(95.9%)「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」(91.9%)「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(87.8%)「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」(87.7%)という項目で肯定的な回答がありました。このことを受け、基礎基本の学習を丁寧にするためながら、これまでのとりくみを検証しつつ、継続していきます。

【 思考力を高める授業づくり 】

国語

- ・個人学習・ペア学習・グループ学習などさまざまな場面でホワイトボードを活用する。
- ・オープクエスチョンを使うことで言語活動を充実させる。
- ・書く活動にとりくむ。(ホワイトボード・視写・ふりかえりジャーナルなど)
- ・長坂プリントの活用、絵本の読みきかせなど語彙を増やすとりくみをする。
- ・読みを深めるための音読の工夫。(動作化・グループ読みなど)
- ・文章中の大切な所に線を引いて、目的に応じた情報を捉えられるようにする。
- ・言葉のプリント(接続語、漢字の読み取り、書き取り)に学校全体でとりくむ。
- ・解答形式に慣れるため、類似の問題にとりくむ。

算数

- ・考えをホワイトボードに示し、全体で共有し、より早くわかりやすく正確に解ける方法を探求する授業を展開する。
- ・授業内での体験的な活動を取り入れていく。体験を通して理解を深めることにより、問題を解く際の活用力が身についていくと想定して授業をすすめる。
- ・問題場面を把握するための手立てを、各学年の発達段階(具体的操作→抽象的操作)を意識して取り入れる。
- ・長坂タイムのプリントの見直し。(裏面の思考力を意識した問題に挑戦)
- ・学校での学習だけでなく、家庭学習の啓発を促し、家庭との連携強化を図る。

児童質問紙の結果を受けて

- ・さまざまな授業でホワイトボードを活用(意見の可視化)し、「楽しい、発表したい」という気持ちをもたせるための授業を工夫する。
- ・発表しやすいような発問の工夫(オープクエスチョンの活用)をし、自分の考えを発表する機会を増やす。さらに、友だちの意見に自分の意見を $+\alpha$ して工夫して発表できるようにスモールステップでとりくむ。
- ・読書週間の設定や授業と関連した並行読書の推進のために、司書と協働し、読書環境を整える。
- ・「わくわく学習」のとりくみを通して自学自習力を身につける。
- ・自己肯定感をあげるためにリフレーミングなどを「気持ちあったかタイム」に取り入れる。